

2023年度 須磨学園中学校入学試験



国 語

第 3 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も 1 字と数えること。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

※ 設問の都合上、本文を一部変更している場合があります。

須磨学園中学校

【一】 次の文章は、見田宗介「差別社会 若者を絶望させた」
（二〇一七年発表）の記事である。これを読んで、後の設問
に答えなさい。

一九六九年、市民四人を射殺した連続射殺犯として、一九歳の少年「N・N」が逮捕されます。永山則夫さん（元死刑囚Ⅱ九七年執行）です。よくが衝撃を受けたのは七一年、彼の手記『無知の涙』を読んだときでした。（ 1 ）

5 N・Nは地方で極貧の子供時代を送り、中卒で上京しています。（ 2 ）逮捕されたあとに字を覚えようとして何度も何度も字を書きつけたものです。

よくも子供時代に貧困を体験し、大学時代は「学生スラム」とあだ名されるシユクシヤにいた。N・Nの言葉に共鳴しました。10 また、読んでいくうちに「これでよくが本来やりたかった仕事ができる」とも思いました。

学生時代のよくは、集団や社会を抽象的に概念、キテイしたり分類したりするだけの社会学をつまらなく感じていました。社会とは、一人一人の人間たちが野望とか絶望とか愛とか怒りとか孤独とかを持って一回限りの生を生きている、その関係の絡まり合い、ひしめき合いであるはずです。切れば血の出る社会学、〈人生の社会学〉を作りたいと願っていた。一人の人生に光を当

て、その人が生きている社会の構造の中で徹底的に分析する。その最初のサンプルをテイジするつもりで書きました。（ 3 ）

20 N・Nにとって都市は、若者の「安価な労働力」としての面には関心を寄せても、その人が自由への意思や誇りを持って生きようとする人間だという面には関心を寄せない場所でした。また社会には、出身や所属によってその人を差別し排除する構造もありました。〔思う通りに理解されない〕ことにN・Nは苦しみ、他25 者のまなざしにソつて自らを変形させていきます。

あのとときN・Nを X させたのは、彼の出身ではないと思います。 Y させたのは、出身で差別する社会の構造です。

よく自身の体験を振り返っても、貧しいこと自体より、「貧しい人間は○○だ」などとレッテルを貼られることのほうがイヤだという感覚が強くあった。社会にあらはじめ用意されている安易な理解の枠組みにあてはめられ、それによってよくという存在が理解されたかのように扱われてしまう問題です。

5 「まなざしの地獄」でよくはN・Nの「精神の鯨」とも呼ぶべきダンペンを紹介しています。（ 4 ）彼が見た夢みたいな話です。

6 鯨のセの上で大海を漂流している「よく」は、飢えて鯨に「君を食べていいかい」と聞きます。鯨は「仕方無いよ」と答え、

「よく」は鯨をほんの少しだけ、また少しだけと毎日食べていく。三分の一食べたところでひどいことだと気付いて謝るのが、鯨はもう死んでいた。そのとき「よく」は、鯨は自分自身の精神であったということに気付く、という話です。

現代の情報産業、知的産業、営業部門などで働く若い人たちが、やむをえない必要に迫られる中で「仕方無いよ」とつぶやきながら、自分の初心や夢やココロザシをちよつとずつちよつとずつすり減らし、食いつぶしている。そしていつか、自分が何のために生きているのか分からなくなってしまっている。

「まなざしの地獄」は文学なのか、社会学なのか、哲学なのか、と尋ねられてきました。

50 近代の知のシステムは「文学」とか「社会学」とかいう様々な分類、壁を作って専門分化してきた。こういう壁は音を立てて崩れるときが来ると思っています。そのあとに現れる「人間学」のようなもの。その一環としてこの仕事を読まれる時代が来るといいな、と思っています。

注1 スラム：貧しい人たちが暮らす地域。

注2 サンプル：実例。

注3 レッテルを貼る：ある人物や物事に一面的な評価を与えること。

注4 システム：多くの物事や一連の働きを秩序立てた全体的なまとまり。

一の設問

問一 次の文を本文中に挿入するとき、最も適当な箇所を、本文中の（ 1 ） ～ （ 4 ）の中から一つ選び、番号で答えなさい。

手記の表紙には、漢字練習帳の写真が載せられていました。

問二 「衝撃を受けた」（――線部 A）とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次のの中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 極貧の子供時代を送り、漢字を満足に書けない境遇にあった N・N に同情していたから。
- 2 筆者が一九七一年に N・N の手記である『無知の涙』を読む機会を得られたから。
- 3 困窮した家庭で育ち、それによって他者から偏見を持たれていた N・N に共感したから。
- 4 筆者が今までに見知った中で、N・N の事件は最も残忍で怖ろしいものだったから。

問三 「思う通りに理解されない」（――線部 B）とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分の特技や技能がかえりみられず、出自や所属によって能力が見限られてしまい大した仕事を与えられないこと。
- 2 自分の理解してほしいと思う姿とは異なり、貧乏な家庭で育ったことに対する哀れみや同情を強調されること。
- 3 自分の出身や所属によって差別され、自分の精神性への考慮がなされず安価な労働力として使い捨てられること。
- 4 自分の個性が尊重されず、都市部に生活する貧困層出身の集団の中のひとりとして、他人との違いが認知されていないこと。

問四

X ・ Y には同じ語が入ります。入る語として

最も適当なものを本文中から抜き出さない。

問五 「鯨はもう死んでいた」（――線部 C）についての説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 現代社会で仕事に就いている若者は仕方なく働いていて夢や希望をなくしているので、夢を抱いていた昔の若者とは違い、いつのまにか自分が生きている実感が得られなくなっているということ。
- 2 現代社会で差別を受けている若者が貧困の中で生きていくことは精神に大きな負荷がかかるので、やむなく差別を受け容れていると、気づかぬうちに自らの心を病んでしまうということ。
- 3 現代社会で働く若者はつまらない社会の中で単純な仕事をお金のために仕方なく続けるうちに、自分の本来の姿を見失ってしまい、社会の中での自分の存在価値に気づけなくなること。
- 4 現代社会で仕事をする若者が自由への意思や誇りを持って生きようとしながらも、会社に安い労働力としてこき使われるうちに、気づいたときには自分の生きる意味を見失ったということ。

設問は、裏面に続きます。

問六 「この仕事」(――線部D)について、

(i) 本文は筆者による「この仕事」の解説です。「この仕事」に該当する著書のタイトルは何ですか。本文中から一〇字以内で抜き出しなさい。

(ii) 「この仕事」とはどのようなものですか。本文全体の内容をふまえて、一〇〇字以上一二〇字以内で説明しなさい(句読点も一字と数えます。なお、採点は、どういう書かれ方をしているかについても見ます)。

120	110	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	

下書き用(※これは解答用紙ではありません)

問七 本文における表現の特徴として**適当でないもの**を、すべて選び、番号で答えなさい。

- 1 2行目の「N・N」と表記したのは、過去の事件に関して、個人情報に配慮しようとする意図である。
- 2 6行目の「何度も何度も」は、字を覚えようとする「N・N」の苦労を印象づける表現の工夫である。
- 3 8行目の「学生スラム」は、大学生の頃の筆者が過ごした貧しい生活環境を表している。
- 4 16行目の「切れば血の出る社会学」とは、筆者が血のにじむような思いで研究したことを表している。
- 5 25行目の「自らを変形させていきます」は、「N・N」の**雰囲気**が以前と変わったことを明示している。
- 6 33行目の「理解されたかのように」は、実際の筆者の自己認識とは異なることを遠まわしに表している。
- 7 37行目の「ぼく」は、筆者自身の「ぼく」ではなく、他の作品からの引用であることを示している。
- 8 52行目の「人間学」の「」は、現代に至って、高度に専門化された学問であることを意味している。

問八 めめめ線部1～7のカタカナを漢字で答えなさい。

- 1 シュクシャ 2 キテイ
- 3 テイジ 4 ソ(って)
- 5 ダンペン 6 セ
- 7 ココロザシ

問九 ……線部a～cの対義語を後の1～4から一つずつ選び、番号で答えなさい。

- a 貧困
- 1 贅沢 2 豪華
- 3 裕福 4 蕩尽
- b 抽象的
- 1 積極的 2 本質的
- 3 具体的 4 印象的
- c 安易
- 1 高価 2 困難
- 3 複雑 4 苦役

二

次の文章は、川野芽生「卒業の終わり」の一節です。女性だけの女学園を卒業した「私」（雲雀草）は、女性は二十五歳で亡くなってしまう外の世界で働き出します。これを読んで、後の設問に答えなさい。

成績じゃなかった。私は、自分が優秀な成績を収めたから希望の配属先に行けたのだと思っていた。女学園の成績、そんなものは何の意味もなかった。

私は同僚や先輩たちが皆同じような、変に粒の揃った雰囲気を持つていることに、違和感を覚えていた。女学園には、もっと色んな子がいた。もっと不揃いだった。「選ばれて」いたのだ――容姿で。ととのって、綺麗で、つるりとした茹で卵のような女性だけが集められていた。

そして私も。その一人だった。花束のように集められた中の、他と変わらないひとつだった。

そこでにこにこ笑っているのが仕事だよ、と老教官は言っていた。身嗜みも仕事のうちよ、とかおりさんは言った。そうして私は言われた通りに身綺麗にして、同僚や先輩たちにますます似ていったのだ。

私の本当の仕事は、書類の処理をしたり、事務的な連絡を回したりすることではなかった。それはあくまでも表向きの、ついでのような仕事で、本当の仕事は、綺麗にして、にこにこして、男性たちの目の保養になり、また彼等の恋人や配偶者として、彼等の心身を慰めることにあった。そういうことなのか。

だから、口説いてきた男性たちは、私が断ると皆一様に、自分の権利を侵害されたような顔をして、それを見ていた女性たちもぼかんとしていたのだ。私たちは、優秀な男性たちがやってくる機関で、中でも男性に与えられる勲章として、ここにいた。「僕は同期で一番成績優秀なんですよ」とタカセは言っていた。それが、女性を獲得するための資格であるかのように。

「あなたもそうなの？ あなたも――可愛い女の子に会うために一生懸命勉強して、アカデミーに入った？」

「それは、まあ」と彼は言葉を濁した。「男はみんなそうだよ。みんな、可愛い女の子に会うためならいくらでも努力するよ」

それじゃあ、外れ籤を引いたんだね。そんな暗黙の決まりも知らず、三年間も交際を断り続ける女の子に当たってしまったって。そんな私に辛抱強く付き合ったあなたは、比較的性格が いいのかもね。

でもあなたは、私が死んだ後も、新しく配属された、同じような可愛い女の子と恋をするのでしょうか？

「男性に努力させるための餌にするより、女性にそのまま女学園で勉強させて、男性と同じような仕事をさせればいいんじゃない

の？」

「え、女性に？ 専門的な仕事をさせるってこと？ でも女性はそういう仕事には向いていないでしょ。歴史上、優れた功績を残した人のほとんどは男性なんだから」

「百歩譲ってそれが正しいとして、そんな理由で女性は殺されるの？ 優れた功績を挙げない人は殺されてもいいってこと？」

「今日は随分と突っかかってくるね。誰も殺してなんかないでしょ」

「だって、女学園から出なければ死なないで済む」「そんなの、生きてるって言える？」

生きていた、私たちは。生きていたよ。

あなたたちなんていなくても。私たちだけで。

注 アカデミー…学問の研究機関。ここでは、主人公とタカセが所属する職場である「工学アカデミー」を指す。

二の設問

問一 ～～～線部 a ～ d における本文中の意味として最も適当なものを、次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

a 粒の揃った

- 1 似たような容姿や形質を持った
- 2 優れた人や良質なものが揃った
- 3 すべての能力や資質が平均的な
- 4 容貌が美しく整っていてきれいな

b ぽかんとしていた

- 1 衝撃を受けて動けないでいた
- 2 状況が理解できずに慌てていた
- 3 あっけにとられてぼんやりとしていた
- 4 相手の真意がわからずばかりにしていた

c 辛抱強く

- 1 つらさをよく我慢して
- 2 長い時間をかけて
- 3 あきらめずに続けて
- 4 強情で自分をまげないで

d 突っかかってくる

- 1 立ち向かって争いをしかける
- 2 機嫌が悪く攻撃的である
- 3 疑問が多くなんでも知りたがる
- 4 無理に自分の主張を通そうとする

問二 「違和感を覚えていた」(――線部 A)とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 女学園の成績は関係なく、自分が数多くいる女性の中の、平凡な一人でしかないと思ったから。
- 2 女学園にいた女性は皆個性的だったのに、職場の女性は誰もが同じような見た目ばかりだから。
- 3 美しい女性の少なかった女学園に比べ、職場の女性は皆整った容姿をしているように感じたから。
- 4 職場の同僚や先輩たちの似たような雰囲気に対し、自然のものではない、奇妙さを感じたから。

問三 「そういうことなのか」(――線部 B)とは、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 「私」には、書類の処理や、事務連絡すら任せられず、身近な男性と親しくすることだけ求められていたのではないかと落胆している。

2 「私」が女性であるという理由から、職場ではまともな仕事をさせる必要などないと周囲から思われていたのではないかと憤っている。

3 女性である「私」の本当の仕事は、働くことではなく、身綺麗にして、男性のために尽くすことなのではないかと、自覚し始めている。

4 女性である「私」には大した仕事などなく、綺麗にして、男性たちを癒すことしか期待されていなかったのではないかと痛感している。

問四 「勲章」(――線部 C)が本文中で意味するものについての説明として、最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 男性たちの中で切磋琢磨して、最も優秀な男性に与えらる名誉。

2 男性社会の中で、他の男性より自分が優秀であることを示す証明。

3 美しい女性たちを、思い通りに従わせることができる男性の権力。

4 優秀になるための男性の努力と引き換えに付き合える美しい女性。

設問は、裏面に続きます。

問五 「彼は言葉を濁した」(――線部D)とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 懸命に勉強した理由が可愛い女性に出会うためだったというのはあまりに露骨であり、好意を持った女性の前で認めるのが気恥ずかしかったから。
- 2 可愛い女の子に出会うために一生懸命勉強してアカデミーに入ったことを「私」に知られてしまうと、「私」の気分を損ねてしまうと思ったから。
- 3 勉強とは自分自身のためにするものなのに、可愛い女性に出会うためだったのかと「私」に問われ、返す言葉が見つからず困惑してしまったから。
- 4 一生懸命勉強したのは可愛い女の子に出会うためではないかと「私」に問われた内容がまさに図星で、なんとか話題を変えようと悩んでいたから。

問六 「百歩譲って」(――線部E)とありますが、なぜ「私」はそのような言い方をしたのですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 男性が誇らしげに自分たちの優秀さについて話をしているのを真っ向から否定すると、相手に嫌われてしまうと思ったから。
- 2 話を進めるためとは言え、そもそも優れた仕事は男性にしかできないという言い分は、「私」には納得できないことだから。
- 3 男性と女性がどちらが優秀かということまで、いちいち相手と議論をしていたら、話がなかなか先に進まないと思ったから。
- 4 外の世界では女性は長生きできないことに比べれば、男性と女性のどちらが優秀かなど、大した問題ではないと思ったから。

問七 「生きていたよ。／あなたたちなんていなくても。私たちだけで」(――線部F)についての説明として適当なものを次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 女学園から出たら女性は死んでしまうというのは、男性に比べて、不公平である。
- 2 男性が一緒でないと女性は生きられないというのは、男性の思い込みに過ぎない。
- 3 男性たちのいないところで、女性たちは、自分たちの人生を存分に楽しんできた。
- 4 女性を見た目で判断するような浅はかな男性は、この世界にいない方が良い。
- 5 女性たちも、男性たちと同じような幸せをこれまでの歴史において享受してきた。
- 6 女学園から出ない人生の選択も存在しうることを、優れた男性たちに認めてほしい。

問八 本文における表現の特徴の説明として適当なものを次の中からすべて選び、番号で答えなさい。

- 1 文末はすべて「た」で統一されており、状況を説明するよな文体である。
- 2 1行目の「成績じゃなかった」は、口語表現を用いることで「私」の気持ちをありありと表現する工夫である。
- 3 2行目の「そんなもの」は、価値を下げるような意味合いで用いられている。
- 4 4行目の「変に」は「同僚や先輩たち」に対する批判的な思いを表している。
- 5 6行目の「選ばれて」に対応する主語は、女学園の生徒である。
- 6 7行目の「茹で卵のような」は、女性たちの肌の白さを表している。
- 7 9行目の「花束のように」は、女性を男性視点で捉えた言葉である。
- 8 11行目の「そこでにこにこ笑っているのが仕事だよ」は、「老教官」が実際に発した言葉である。

[illegible]

名 前	
-----	--

—

※	※												※	※	※
問七	問六												問五	問三	問一
	ii											i			
120		100		80		60		40		20		10			

(※の欄には、何も記入してはいけません)



※	問八	
※	問七	
※	問六	
※	問五	
※	問四	
※	問三	
※	問二	
※	問一	
	d	a
	b	
	c	

（※の欄には、何も記入してはいけません）

二

※	問九	a		b		c	
※	問八	7	4	1			
			(うて)				
			5	2			
			6	3			

